

奈良ブロック

*25日(木)19時から第1回聖書講座が八木教会でスタートします。

テーマは『救いの歴史と典礼暦』 講師は大分司教区の山下神父様です。

大和高田教会

*ドキュメンタリー映画「被ばく牛と生きる」の上映会が4月28日(日)13時~奈良教会であります。この映画会を企画された奈良教会の川神さんから、ミサ後、映画の説明がありますのでよろしくお願ひします。

*映画の説明の後、地区集会がありますので、地区別にお集まりください。

*聖週間、18日(聖木曜日)は19時、19日(聖金曜日)は19時、20日(聖土曜日)は20時30分となっています。ミサの時間にご注意下さい。

*フェリペ神父様は4月22日付で草津教会へ異動になられます。神父様ありがとうございました。復活の主日のミサ後、聖堂で送別会を致します。全員での写真撮影もします。送別会の後でご復活のお祝いのパーティを致します。

受難の主日 《みことば》「人の死」《聖書》 ルカによる福音書 22:14-23:56

人の死 私たちはなかなか死について考えることはできませんし、まさか自分がすぐ死ぬと思っている人はいないと思います。しかし、人間にとって死とは常に解決できない問題です。死は人々にとって不安の種です。けれども、死後についての考え方によって、死に対する受け取り方は違ってくるのも当然です。

イエスの死 イエスは言葉と行ないによって福音を伝えていましたが、その頃の支配者たちから良く思われなかったために、十字架の上で殺されてしまいました。人々はイエスが自分たちの王国を建ててくれるだろうと期待していましたが、その期待がむなしいものとなりました。イエスに従っていた弟子たちは、ペトロをはじめ皆どこかへ逃げてしまいました。どうしてこんな事になったのでしょうか。イエスはただひたすら、その頃皆から差別され、しいたげられていた人たちの立場に立って行動し、人間が人間らしく一人前に生きられるように主張しました。そのために、イエスの行動はその頃の支配者を批判する事になってしまいました。イエスが十字架刑で殺されたのも、イエスがその時の支配者であったローマに敵対する者、逆らう者と考えられたからです。

イエスの死は、私たちに何を示しているのでしょうか。もし、私たちがイエスに従いますと言うのなら、私たちもイエスと同じように行動する事を求められているのです。そうすると、もしかしたら支配者に逆らう者として殺されるかもしれません。